

5. 本社への報告の遅れ

今回の事例については、本来、本社に報告すべき重大な過誤事例であったが、当該血液センターでは、その認識が不足し、また、危機管理意識が希薄であったため、本社血液事業本部への報告が遅れた。

6. 再発防止策

① 当該血液センターの対応

ア. 平成 20 年 10 月 16 日に当該血液センター採血課の看護師に対し、採血基準についての教育訓練を実施し、認識の徹底を行った。

イ. 平成 20 年 10 月 16 日に、ヘモグロビンを測定する事前検査用の机にヘモグロビン判定基準を表示し、事前検査担当看護師が確認を行えるようにした。

ウ. 長野県内の全施設において、検診医及び看護師等に対し、改めて採血基準及び採血受付から本採血に至るまでの手順について教育訓練を実施する。

② 本社の対応

ア. 平成 20 年 10 月 16 日に、全国血液センターに対し、本事例を踏まえた注意喚起を行うとともに、採血基準及び法令の遵守を徹底し、また事故等報告書で報告される重大な事例は、速やかに血液事業本部に報告するよう通知した。

イ. 平成 20 年 10 月 17 日に、当該血液センターに対し血液事業本部及び基幹センターの職員による実地の確認を行い、以下の事項について指導した。

- ・採血部門の標準作業手順書を遵守すること。
- ・データの書き換えが重大な事項であることを認識すること。
- ・重要事例は速やかに血液事業本部へ報告すること。

ウ. 関係職員の処分については、現在検討中である。

(参考) 献血方法別の採血基準

| | 成分献血 | | 全血献血 | |
|--------|--|---------------------------------------|---|---|
| | 血漿成分献血 | 血小板成分献血 | 200mL 献血 | 400mL 献血 |
| 1 回献血量 | 300mL～600mL(体重別) | 400mL 以下 | 200mL | 400mL |
| 年 齢 | 18 歳～69 歳※ | 18 歳～54 歳※ | 16 歳～69 歳※ | 18 歳～69 歳※ |
| 体 重 | 男性 45kg 以上・女性 40kg 以上 | | | 男女とも 50kg 以上 |
| 最高血圧 | 90mmHg 以上 | | | |
| 血液比重等 | 血液比重 1.052 以上 又は 血色素量 12g/dL 以上 (赤血球指数が標準域にある女性は 11.5g/dL 以上) | 血液比重 1.052 以上 又は 血色素量 12g/dL 以上 | 血液比重 1.052 以上 又は 血色素量 12g/dL 以上 | 血液比重 1.053 以上 又は 血色素量 12.5g/dL 以上 |
| 血小板数 | ————— | 15 万 μ L 以上 60 万 μ L 以下 | ————— | ————— |
| 年間献血回数 | 血小板成分献血 1 回を 2 回分に換算して血漿成分献血と合計で 24 回以内 | | 男性 6 回以内 女性 4 回以内 | 男性 3 回以内 女性 2 回以内 |
| 年間総献血量 | ————— | ————— | 200mL 献血と 400mL 献血を合わせて 男性 1,200mL 以内 女性 800mL 以内 | |

※65 歳以上の献血については、献血される方の健康を考え、60～64 歳のあいだに献血経験がある方に限ります。

献血の間隔

| 今回の献血 次回の献血 | 血漿成分献血 | 血小板成分献血※ | 200mL 献血 | 400mL 献血 |
|----------------|-----------------------------|----------|---------------------------------|--|
| 血漿成分献血 | 男女とも 2 週間後の同じ曜日 から献血できます | | 男女とも 4 週間後の 同じ曜日から献血で きます | 男女とも 8 週間後の 同じ曜日から献血で きます |
| 血小板成分献血 | | | | |
| 400mL 献血 | | | | 男性は 12 週間後・女 性は 16 週間後の同じ 曜日から献血できま す |
| 200mL 献血 | | | | |

※血漿を含まない場合には、1 週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし 4 週間に 4 回実施した場合には次回までに 4 週間以上あけてください。